

原子力利用長期計画策定会議第 6 分科会
(報告書についてのコメント)

平成 12 年 3 月 9 日
国 廣 道 彦

横型についての小生のコメントは次の通りです。

- 1 原子力発電について、エネルギー問題、環境問題に対処するために必要不可欠であることを正面から説明すべし。
- 2 プルトニウム利用政策についての国内の原子力関係者の「常識」では、国際的には容易に通用しがたい情勢になっていると思う。我が国のおかれた状況との関係で、どのような考え方・意図で、現在のようなプルトニウム利用方策を進めているのかについての対外的に説得のある明確なロジックが必要である。
- 3 また、プルトニウムの需給バランスについて、「もんじゅ」の事故後、我が国のプルトニウムの利用について内外の関心が高まっているにもかかわらず、いっこうに新たな説明がなされていない状況は、将来困難を招く。プルトニウム利用について、「透明性」確保の努力を怠りながら、十分な努力が払われてきたとは言えないのではないか。
- 4 放射性物質輸送については、既存の再処理契約に基づく輸送が行われる期間に際しての問題と理解するが、これらを円滑に行うため、沿岸国の理解を得るための方策を増強することを政府、民間とも考えるべし。
- 5 アジアへの原子炉輸出については、(私は審議に参加していなかったが) 原子力協定の締結を先行させるなど政府がリードするのではなく、政府はビジネスの進行に伴って必要となる状況に対応して措置をとるのが適当ということを明確にすべし。